

## 課題1: 体育・スポーツ場面・指導場面で使われる言葉のイメージをつかむ

### 【事例】

- ・「かわす」、「おとり」、「フェイントをかける」といった語彙は、体感による理解と定着が有効である。



- ・生涯スポーツ（する・見る・支える）の観点から、体育・スポーツ場面で一般的に使われる言葉については、小学部段階から理解・習得を進めていく必要がある。
- ・基本的な言葉の理解は指導者の説明や指示と学習者の理解との「ずれ」をなくすために、非常に重要である。

### 指導のポイント

- ・実際に体を動かしながら、言葉の意味を理解させる  
(即時フィードバックが重要！)
- ・視覚教材を活用し授業の中で完結させない

### 【手立て】

(例)「かわす」

- ・子どもに身につけてほしい言葉を提示する。
- ・教師が子どもにわかりやすく（やや大袈裟くらいに）示範する。
- ・児童が運動学習の中で「かわす」動作をできた時には、「それが、かわすだよ！＝即時フィードバック」の声掛けを行う。(例えば、バスケットボールのときに、ドリブルで相手を「かわし」たとき)
- ・動きの良い児童を見本として、全体で発表させ、理解を深めさせる。(運動有能感の向上)
- ・キーワードは、必ず手話とともに文字情報も提示する。

### 【実践例】

- ・キーワードは、児童が生活の中で目に触れるように廊下に掲示する。
- ・キーワードを用いた例文を提示し、理解を深めさせる。



日)

今日のキーワード (11月13日)

# かわす

「身をひねって、相手をかわす」

今日のキーワード (11月18日)

# おとし

「おとしを使った作戦を考える」

今日のキーワード (11月20日)

# ブロック

「手を広げて、相手をブロック」

今日のキーワード (12月2日)

# パス

「相手のとりやすいパスをする」

# キャッチ

「パスを走りながらキャッチする」

今日のキーワード (12月4日)

# スピード

「スピードのあるこげきをする」

「速いスピードのパスをする」

今日のキーワード (12月9日)

# ロングパス

# ショートパス

「ロングパスで高得点を」

「ショートパスでボールを」